

スマトラ、リアウ生物圏コアエリアへのエコツアー

日時: 2009年7月31日～8月2日

参加者: 京都大学 (水野広祐、川井秀一、林隆久、甲山治、藤田素子、樺沢麻美、Haris Gunawan, 海田るみ); リアウ大学 (Siregar Sofyan, Ahmad Muhamad); LIPI (Enny Sudarmonowati, Wahyu Dwiyanto); Sinar Mas Forestry (Ari Argataja, Ari Rosadi, GuGum Gumilar); Rangers (Ujang, B. Sivavahi)

今回のエコツアーは、Humanosphere Science School に先立ち、コアゾーンの自然林まで奥深く入り、リアウ生物圏における研究の足掛かりを得ることを目的に企画・実行された。本ツアーのために、予めリアウ生物圏に入る許可を林業省リアウ州自然保護庁(BBKSDA)にお願いし、その許可証(Natural Resources Conservation Agency of Riau)を取得し、2名のレンジャーとともに現地入りした。

プログラム

[7月31日]

参加者全員は、午前9時にリアウ大学に集合してから Institute of Sinar Mas Forestry (Perwang)を訪問した。Sinar Mas Forestry プロジェクトや持続可能なプランテーションの経営方針などの説明を受け、組織培養を行っている研究室などを見学した。昼食後、Bukit Batu District キャンプ地に向けて出発し、午後8時ごろ現地に到着した。

[8月1日]

Bukit Batu Biosphere Reserve コアゾーン奥深くにボートで入った。奥深いコアゾーン(3時間くらいかけて入った場所)においても、既に、価値のある樹木はほとんど伐採尽くされているのが現状で、自然林は残されていなかった。ボートを降り、泥炭湿地林の奥へ 10分くらい徒歩で入ると、エコシステムに有用とされている自生樹種である Jelutung lavor、Meranti batu や Shorea celiginosa が見られた。

[8月2日]

PT. Mapala Rabda 社が経営する *Acacia crassicarpa* プランテーションを訪問した。Mr. S. Ramalingam から *Acacia crassicarpa* の育種方法について説明を受けた後、ナーサリーを見学した。その後、Pekanbaru に向けて出発し、午後8時ごろ宿泊所(Pekanbaru)に到着した。